

色素性母斑の手術について

*多くは生下時よりみられる褐色から黒褐色の色素斑で、小さいものは「ほくろ」、大きいものは「黒あざ」と一般によばれています。

手掌・足底のものはまれに皮膚癌を生じることがあるので、小さいものでも切除しておいたほうが良いです。

- 外科的手術は、小さいものには単純切除、大きいものは植皮術をします。
- 手術される場合は、基本的に通院治療となります。
- 切除したものは顕微鏡で更に詳しく調べ、後日結果説明を行います。
- 手術後約7～10日目で糸を抜きます（抜糸）。
- 創部は糸を抜くまでは水に濡らさないで下さい。
- 手術後約3日間化膿止めの薬（抗生物質）を内服投与します。
- 手術後、定期通院が必要となります。
- 傷跡は線状に残り、完全には消えません。
- 抜糸後約3ヶ月のテープ固定と約3～6ヶ月の紫外線予防をすることで、より傷跡を目立たなくすることができます。
- まれに悪性である場合があり、その時は追加手術等が必要となります。
- 不明点は診察時に医師に質問して下さい。

